

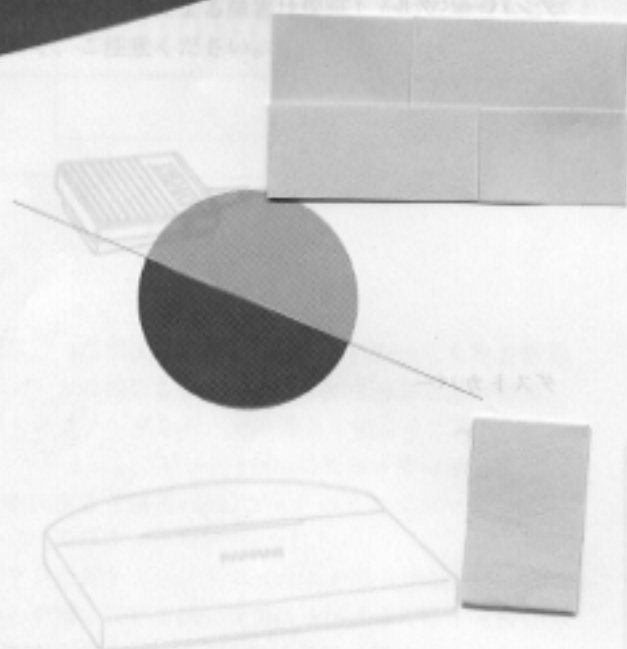
# YAMAHA

## PERSONAL ELECTRONIC PIANO

# YPP-35

### 取扱説明書

このたびは、ヤマハ・パーソナルエレクトロニックピアノYPP-35をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。



### この取扱説明書の見方

本書は、少しずつステップを踏んで読んでいただけるような構成になっています。従って、基本的には前の方からご覧ください。また、次のような見方をされるのも便利です。

全てをご理解いただいた後は……

“もくじ”を見て目的に合った所をさがす。

ボタン等のはたらきが分からなくなった時……

“各部の名称とはたらき”を開いて調べる。

さらに詳しく知りたい時は、そこに記載してある参照ページを見る。

もくじ

#### 1. ご使用の前に

1. ご注意	1
2. 付属品	1
3. 電源のしたく	2

#### 2. 各部の名称とはたらき

1. 操作パネル	3
2. 付属端子	5

#### 3. 鳴らしてみよう

1. 好きな音色で弾く	6
2. デモ演奏を聴く	7
3. 演奏に効果を加える (アンサンブル、リバーブ、ダンパー)	9
4. メトロノームに合わせて弾く	11
5. 音程を変える(トランスポーズ)	13

#### 4. 演奏を録音/再生する(パフォーマンスメモリー)

1. 演奏を録音する	14
2. 演奏を再生する	16

#### 5. その他の機能

1. 他の楽器と音程を合わせる (マスターチューニング)	17
2. 他の機器と接続する	18
3. MIDI機能を使う	19

#### 6. 資料

1. オプション(別売品)のご紹介	24
2. 仕様	24
3. おかしいな?と思ったら	25
4. 保証とアフターサービス	26

# 1. ご使用の前に

## 1. ご注意

こんな所には置かないでください。



- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所。
- ・日中の車内
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

こんな所では使わないでください。



- ・ラジオやテレビのすぐ近くで使用されますと、ラジオやテレビ側で雑音が発生することがあります。十分に離してお使いください。

乱暴に扱わないでください



- ・落としたり、物をおつけたり、上に座ったりしないでください。傷がついたり、故障の原因になることがあります。
- ・スタンドを取り付けた状態で倒したり、壁におつけないでください。

使わない時は…



- ・必ず電源を切ってください。
- ・電源アダプターを、家庭用コンセントから抜いてください。
- ・長い間使わない時は、乾電池を取り出してください。

美しく保つために…



- ・汚れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ・汚れがひどい時は、少し水で濡らした布で拭いてください。
- ・アルコールやシンナー類は、絶対に使わないでください。
- ・ビニール製品を上に乗らないでください。張り付いてしまうことがあります。

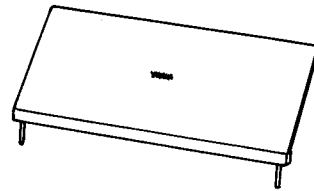
保管してください。



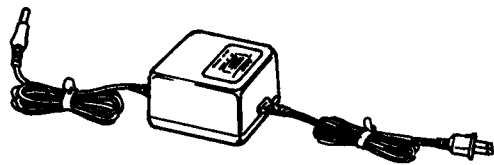
- ・この取扱説明書をお読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

## 2. 付属品

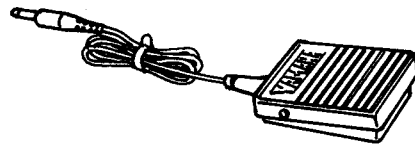
譜面立て



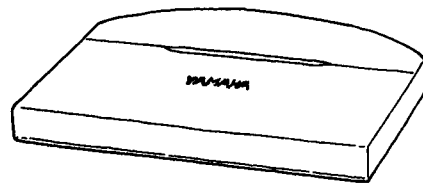
電源アダプター



ダンパーペダル



ダストカバー



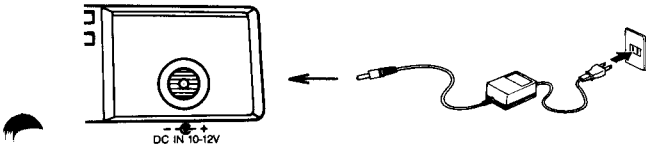
### 3. 電源の仕方

YPP-35は、家庭用コンセントでも乾電池でも使えます。お使いになる前に、どちらかを選んで準備してください。

#### 家庭用コンセントから電源を取る場合

付属の電源アダプターPA-4を使用します。図のように接続してください。

- ①背面パネルにある電源アダプター接続用端子(DC IN 10-12V)へ差し込む。

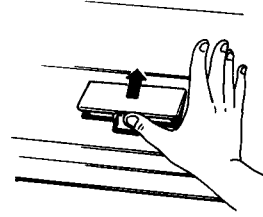


- ②家庭用(AC100V)コンセントに差し込む。

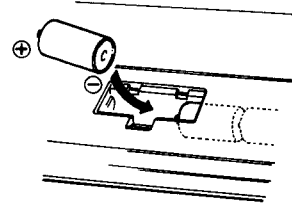
※他の電源アダプターは絶対に使わないでください。他の電源アダプターの使用による障害は保証しかねる場合もございますので、ご注意ください。

#### 乾電池を使う場合

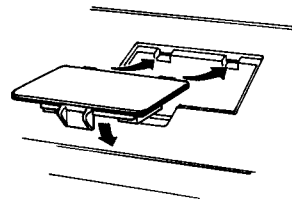
- ①YPP-35を裏返し、電池ブタを外します。



- ②市販の乾電池(単1乾電池)6本入れます。向きを間違えないように入れてください。



- ③電池ブタを閉めます。

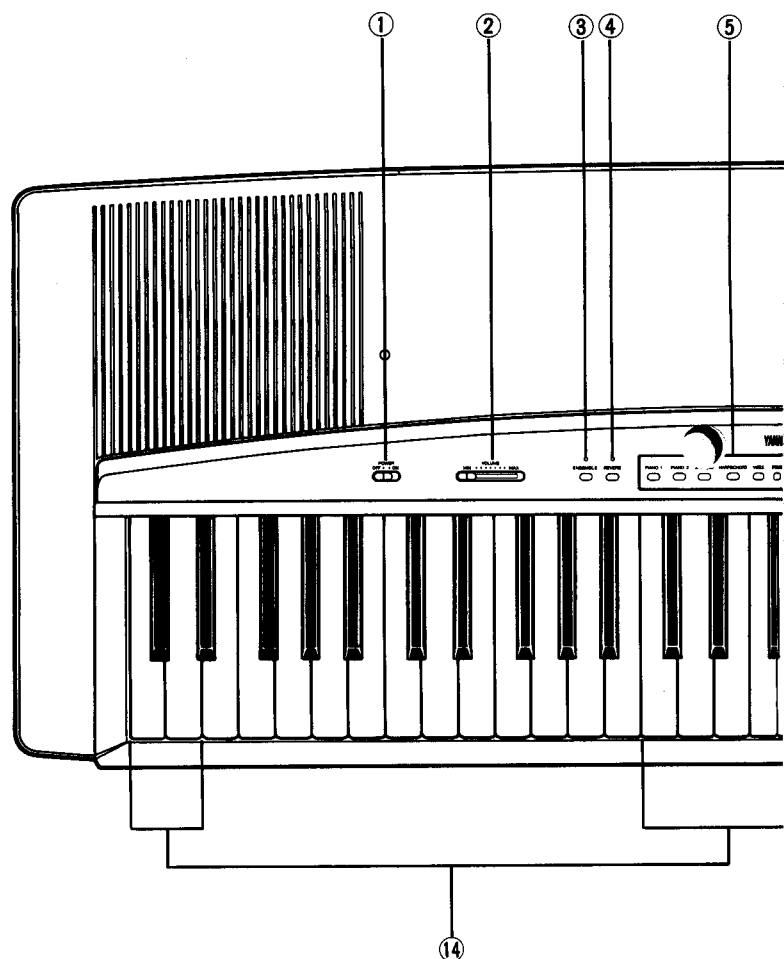


※電池が少なくなりますと、音が歪んだり、途切れたり誤動作するようになります。このような時は、6本共新しいものと交換してください。  
お買い求めの際、乾電池は単1乾電池6本とご指定ください。  
※乾電池が入っていても、電源アダプターが接続されると、自動的に電源アダプターから電源が供給されるように切り替わります。  
※古い乾電池や種類の違う乾電池を組み合わせず使わないでください。

# 2 各部の名称と働き

→ページに詳しく説明してあります。

## 1. 操作パネル



### ①電源(ON/OFF)スイッチ(→6ページ)

このスイッチをONの位置にすると電源が入り、OFFの位置にすると切れます。電源が入ると、⑥のソングセレクトボタンの上の1のランプが点灯します。

### ②ボリュームレバー(→6ページ)

全体の音量を調節するためのレバーです。

### ③アンサンブルボタン(→9ページ)

このボタンを押してランプを点灯させると、演奏音にアンサンブル効果が付き、音が広がって聞こえます。

### ④リバーブボタン(→9ページ)

このボタンを押してランプを点灯させると、演奏音にリバーブがかかり、音の響きが豊かになります。

### ⑤音色ボタン(→6ページ)

演奏に使う音色を選ぶことができます。

### ⑥ソングセレクトボタン(→14ページ)

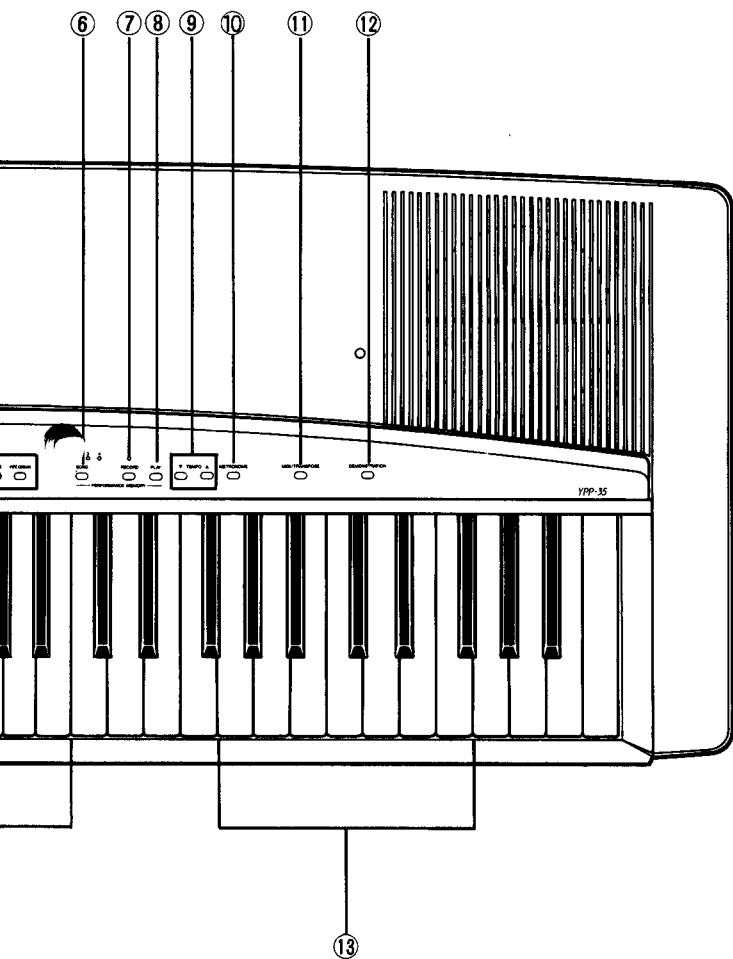
パフォーマンスメモリーで録音・再生する曲の番号を選びます。

### ⑦レコードボタン(→14、15ページ)

このボタンを押してランプを点灯させると、演奏の録音をはじめます。もう一度このボタンを押すか、⑧のプレイボタンを押すと録音が終了します。

### ⑧プレイボタン(→16ページ)

このボタンを押すと、⑥のソングセレクトボタンで選ばれているソングを再生します。ソングを再生中にもう一度このボタンを押すと、再生がストップします。



⑨テンポ(△、▽)ボタン(→11ページ)

メトロノームの速さを調節するためのボタンです。また、このボタンでソングを再生する速さを変えることもできます。

⑩メトロノームボタン(→11ページ)

このボタンを押すと、メトロノームが鳴り出します。メトロノームが鳴っている時に、もう一度このボタンを押すと、メトロノームは止まります。

⑪MIDI/トランスポーズボタン  
(→13、20ページ)

MIDI(ミディ)機能の設定をする時や、トランスポーズ(移調)の設定をする時に使用します。

⑫デモンストレーションボタン  
(→7ページ)

YPP-35にはデモンストレーション曲が音色ごとに1曲ずつ、計8曲入っています。そのデモ演奏を聴く時に使用します。このボタンを押しながらボイスボタンを押すと、その音色のデモ演奏が聞けます。

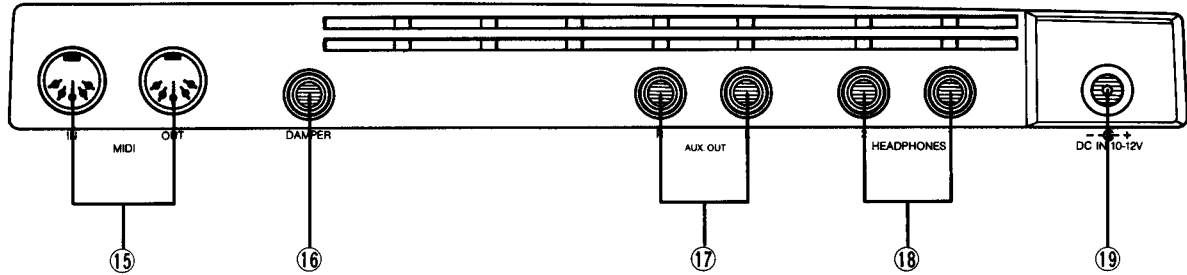
⑬トランスポーズ用鍵盤(→13ページ)

MIDI/トランスポーズボタンを押しながらこの音域の鍵盤を押すことで、トランスポーズ(移調)の設定をします。

⑭マスターチューニング用鍵盤  
(→17ページ)

この音域の鍵盤を使うことで、他の楽器とアンサンブルを楽しむ時など、微妙な音程の調節をすることができます。

## 2. 付属端子



### ⑮MIDI(IN、OUT)端子(→19ページ)

他のMIDI(ミディ)機器と接続するための端子です。他のMIDI機器と接続すると、MIDI機能を使えるようになります。

### ⑯ダンパーペダル接続用端子(→10ページ)

付属のダンパーペダルを接続するための端子です。

### ⑰AUX出力端子(→18ページ)

YPP-35の音を外部に出力する端子です。キーボードアンプやステレオと接続して、より大きな音で鳴らすことができます。

### ⑱ヘッドホン端子(→18ページ)

ヘッドホン接続する端子です。2本まで接続することができます。ヘッドホンを使うとYPP-35のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でも回りに迷惑をかけることはありません。

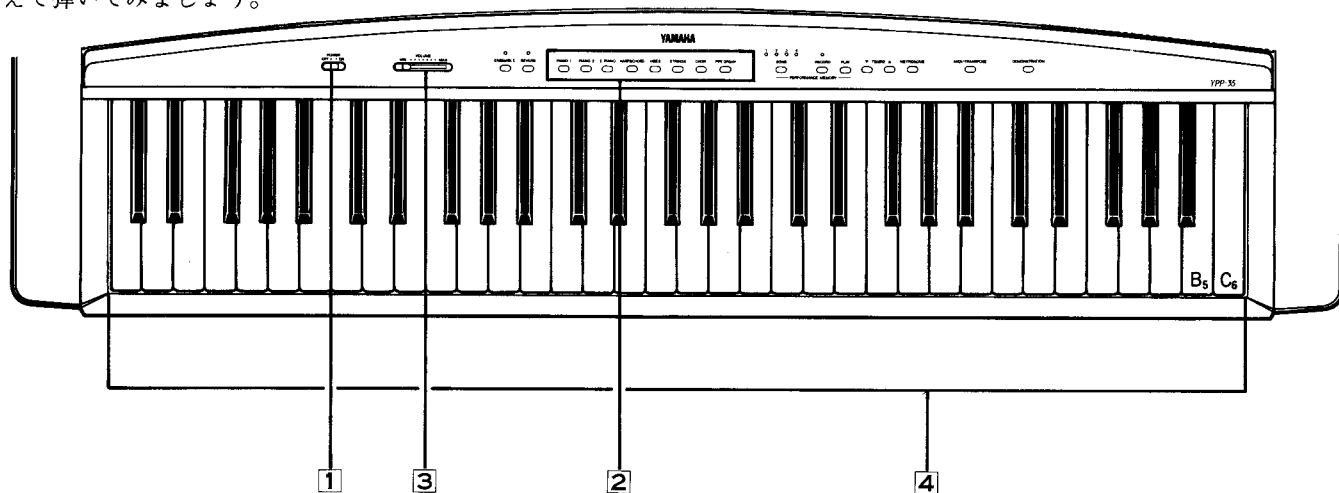
### ⑲電源アダプター接続用端子(→2ページ)

付属の電源アダプターPA-4を接続するための端子です。PA-4を接続すると、家庭用の電源コンセントから電源をとって使用できるようになります。

# 3. 鳴らしてみよう

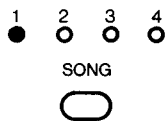
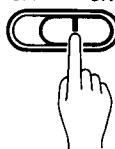
## 1. 好きな音色で弾く

YPP-35には8種類の音があります。いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。



### 1 電源を入れる

POWER  
OFF • • ON



電源(ON/OFF)スイッチをONの位置にして電源を入れます。

### 2 音色の指定

PIANO 1 PIANO 2 E.PIANO HARPSICHORD VIBES STRINGS CHOIR PIPE ORGAN

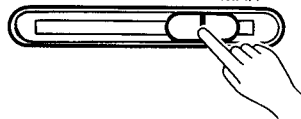


音色を選んで音色ボタンを押します。

※電源を入れた直後は、PIANO 1の音色になっています。

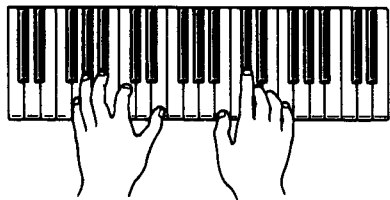
### 3 音量調節

VOLUME  
MIN • • • • • MAX



ボリュームレバーで音量調節します。

### 4 演奏



好きな曲を弾いてみましょう。

※音の大きさは、鍵盤を弾くタッチの強弱に応じて変化します。

(抑揚の表現が可能です。)

なお、音色によってこの感度は異なりますが、3段階の中で感度を切り替えることができます。

**[感度の切り替え方法]**

最高音部の2音(B<sub>5</sub>とC<sub>6</sub>)の鍵盤を同時に押しながら、次のいずれかのボタンを押します。(電源ON時は、感度2になっています。)

PIANO 1・・・感度1

PIANO 2・・・感度2

E.PIANO・・・感度3

※いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

※最大同時発音数は、音色によって異なります。

PIANO 2、HARPSICHORD ……32音

その他の音色……………16音

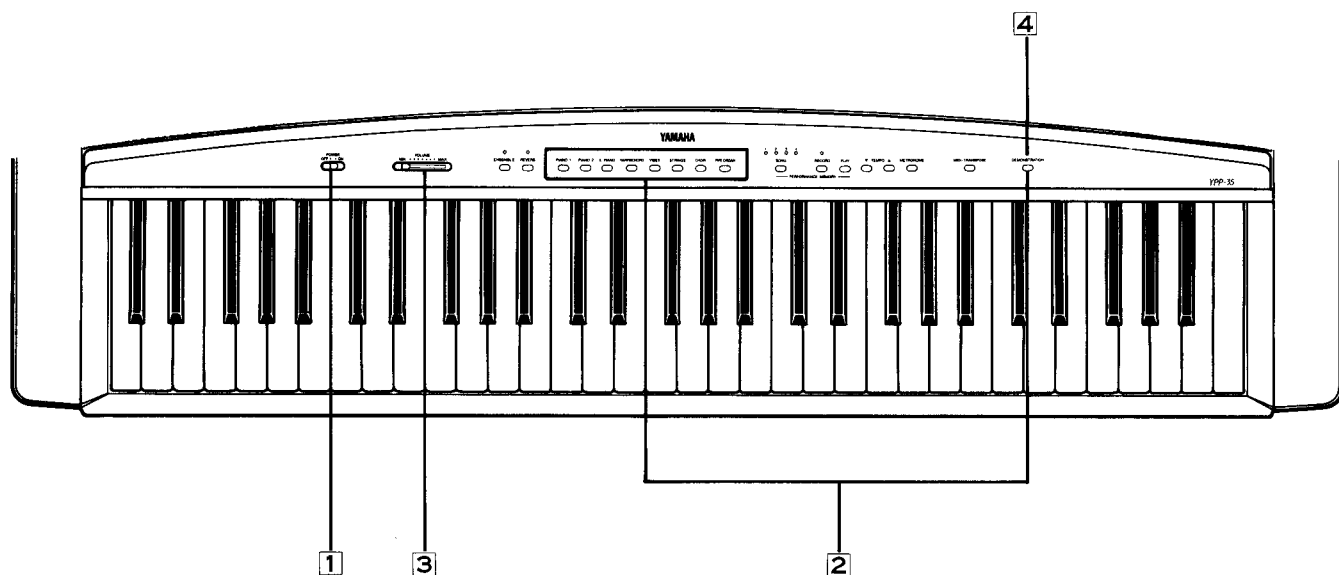
ただし、アンサンブルボタンの上のランプが点灯している

時は、全音色とも同時発音数は最大16音になります。

※音色によっては、鍵盤上のいくつかのポイントで音色に差が生じます。これはマルチサンプリングによるためであり、本体の異常ではありません。

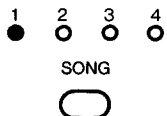
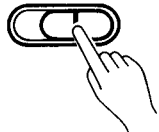
## 2. デモ演奏を聴く

YPP-35には、デモンストレーションと呼ばれる8種類の曲が入っており、いつでも自由に聴くことができます。



### 1 電源を入れる

POWER  
OFF • ON



電源(ON/OFF)スイッチをONの位置にして電源を入れます。



## 2 曲をスタートさせる

デモ演奏を連続演奏させる時

DEMONSTRATION

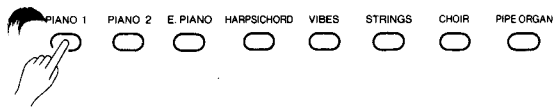


ある音色のデモ演奏だけを聴く時

DEMONSTRATION



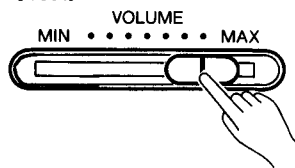
押しながら



8曲のデモ演奏を順番に連続演奏させたい時は、デモンストレーションボタンだけを押ししてください。

ある音色のデモ演奏だけを聴く時は、デモンストレーションボタンを押しながら、聴きたい音色の音色ボタンを押します。

## 3 音量の調節



ボリュームレバーで、適当な音量になるように調節します。

## 4 ストップ

DEMONSTRATION

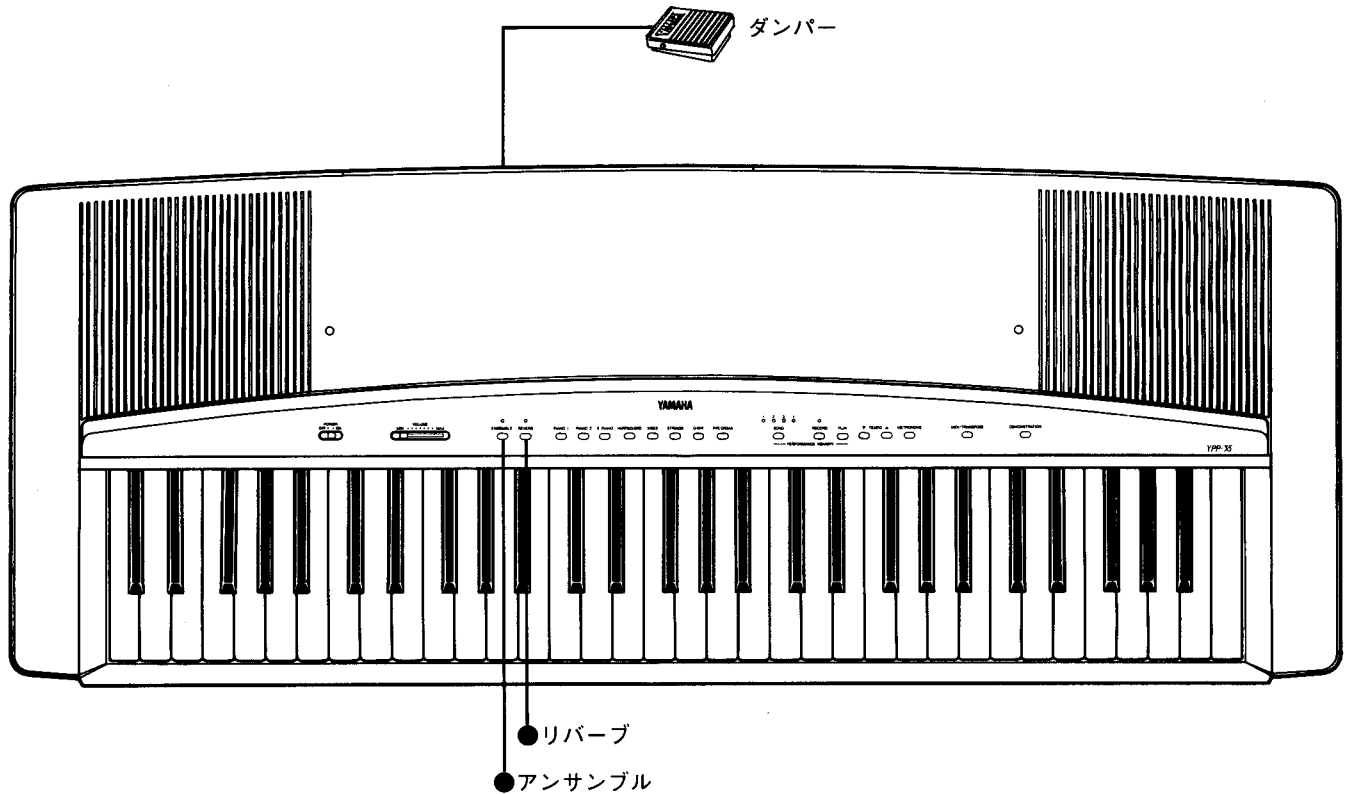


停止させる時は、デモンストレーションボタンを押します。

- ※デモ曲を聴きながら、演奏することもできます。
- ※デモ曲の再生中でも、アンサンブルとリバーブは入/切できます。
- ※デモ曲の音色やテンポを変更することはできません。
- ※デモ曲のトランスポーズ設定は、演奏停止時に行ってください。

### 3. 演奏に効果を加える(アンサンブル、リバーブ、ダンパー)

YPP-35には、アンサンブル、リバーブ、ダンパーという3つの効果があります。これらは、演奏を引き立てる役目をするものです。



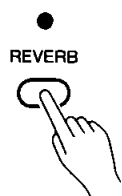
#### ●アンサンブル



アンサンブルは、音に広がりをもたせる効果です。

アンサンブルボタンを押してランプを点灯させると効果がONになり、音が広がるようになります。  
もう一度押すと、効果がOFFになります。

## ●リバーブ



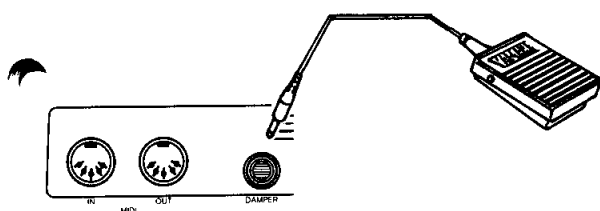
リバーブは、音の響きを豊かにさせる効果です。

リバーブボタンを押してランプを点灯させると効果がONになり、残響が付くようになります。

もう一度押すと、効果がOFFになります。

※残響の深さは音色により異なります。

## ●ダンパー



ダンパーは、ピアノのダンパーペダルを踏んだ時のように、音を持続させる効果です。ダンパー効果をかけると鍵盤を離しても音が切れず、効果的に使うと和音を豊かに響かせることができます。ピアノを演奏する上でとても大切な効果です。

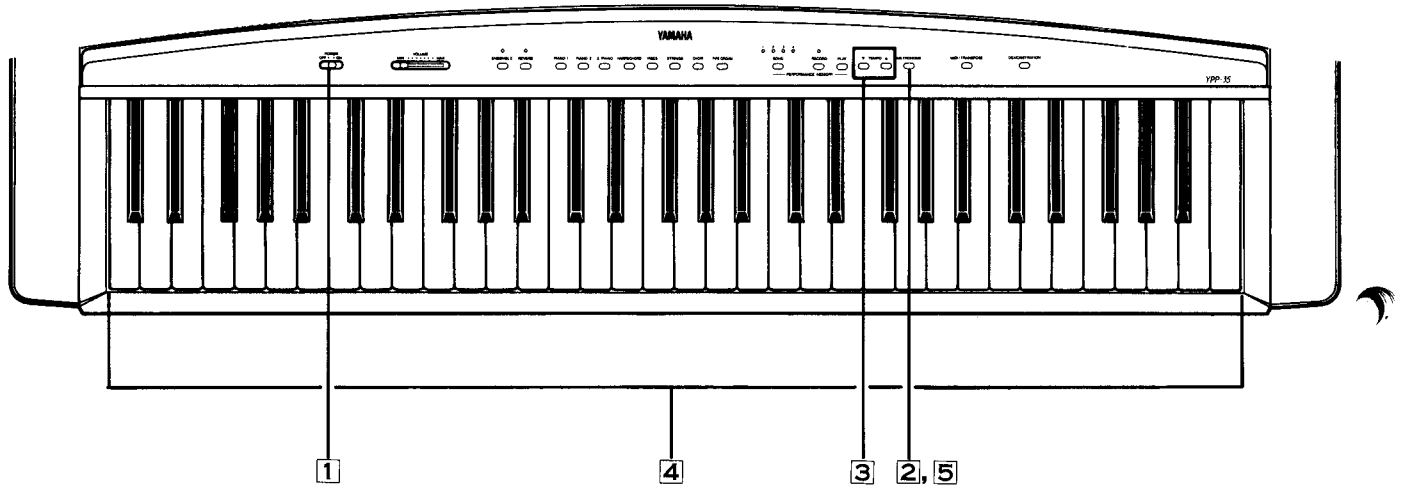
ダンパーペダルを踏むとダンパー効果がかかり、鍵盤を離した後も音が消えずに持続します。

ダンパーペダルを離すと、それまで持続していた音が消えます。

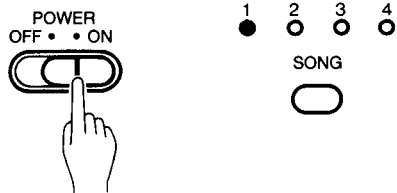
※音が持続している間も、徐々に音量が小さくなっていきます。

## 4. メトロノームに合わせて弾く

YPP-35には、演奏の補助機能としてメトロノームがあります。ピアノの練習をする時などに活用してください。



### ① 電源を入れる



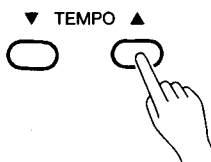
電源 (ON/OFF) スイッチをONの位置にして電源を入れます。

### ② メトロノームをスタートさせる



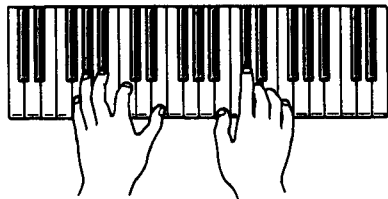
メトロノームボタンを押してメトロノームをスタートさせます。

### ③ テンポの調節



テンポ(△、▽)ボタンを押してテンポを調節します。  
 △ボタンを押すと一段階速いテンポになり、▽ボタンを押すと一段階遅いテンポになります。押し続けると連続して変わります。  
 ※テンポの可変幅は、♩=40~280です。  
 ※△ボタンと▽ボタンを同時に押すと、テンポは♩=120になります。  
 ※電源を入れた直後、テンポは♩=120になっています。

#### 4 演奏



メトロノームに合わせて弾いてみましょう。

#### 5 メトロノームを止める

METRONOME



停止させる時は、メトロノームボタンを押します。

※テンポは表示されませんが、テンポを1段階ずつ可変できることを利用して、テンポ(△、▽)ボタンを押した回数でおよそのテンポを知ることができます。

まず、テンポの△ボタンと▽ボタンを同時に押してテンポを♩=120にしてから、テンポ(△、▽)ボタンを回数を数えながら押し、下の表で今のテンポを調べてください。

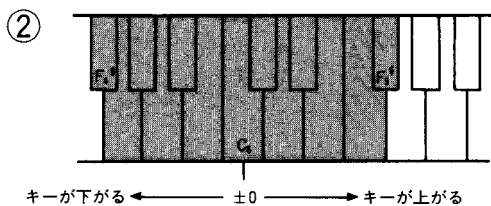
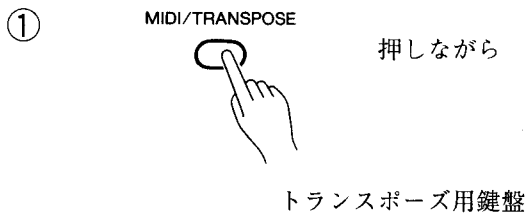
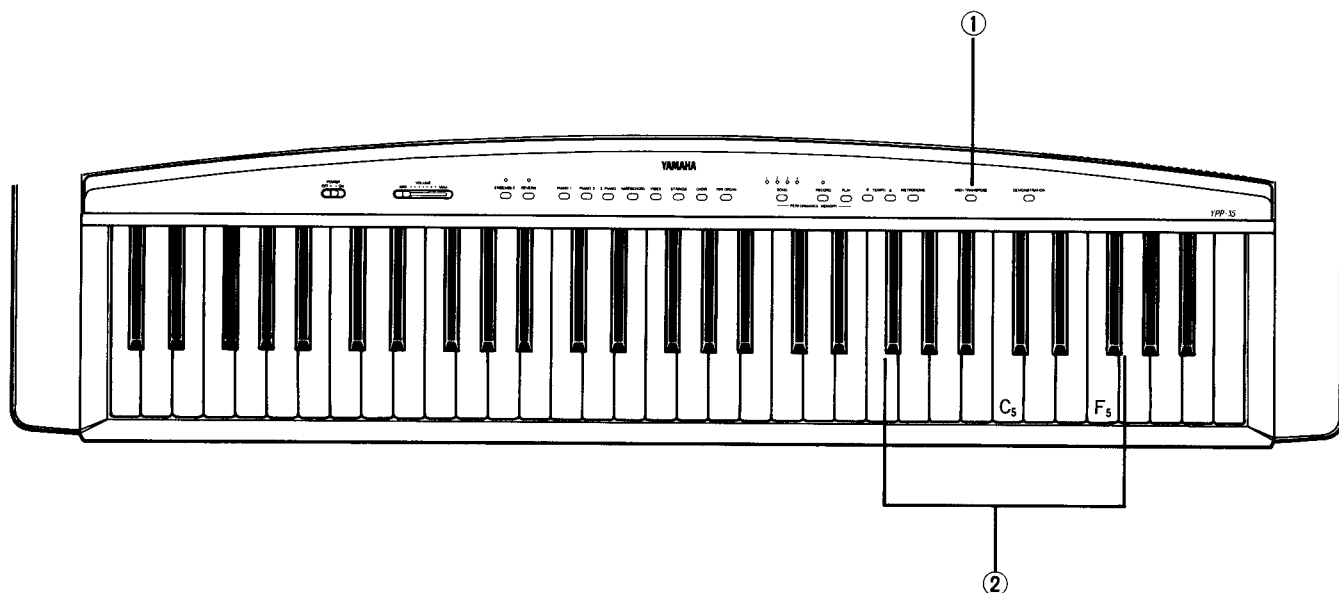
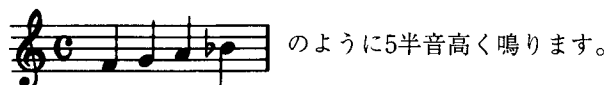
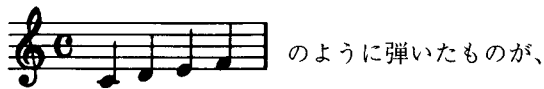
▽ボタン		1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
テンポ	120	116	112	108	104	100	96	92	88	82	76
▽ボタン	11回	12回	13回	14回	15回						
テンポ	70	64	56	48	40						

△ボタン		1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
テンポ	120	126	132	138	144	152	160	168	176	184	192
△ボタン	11回	12回	13回	14回	15回	16回	17回	18回	19回		
テンポ	200	208	216	226	236	246	256	268	280		

テンポ(△、▽)ボタンを押し続けるとテンポは連続して変化しますので、ご注意ください。

## 5. 音程を変える(トランスポーズ)

押さえる鍵盤を(運指)を変えずに、歌う人の声の高さにキーを合わせる。つまり移調(トランスポーズ)することができます。(弾く高さで発音される高さを、ずらすことができます。) ±6半音(±1/2オクターブ)の範囲で設定できます。たとえば、MIDI/トランスポーズボタンを押しながらF5(一番高いファの鍵盤)を押さえると、



移調量を設定します。

- ①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、
- ②トランスポーズ用鍵盤ファ# (F#<sub>4</sub>) ~ ファ# (F#<sub>5</sub>) のいずれかひとつを押せば、そのキーに移調されます。

元の高さに戻すには、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ド(C5)のキーを押さえてください。

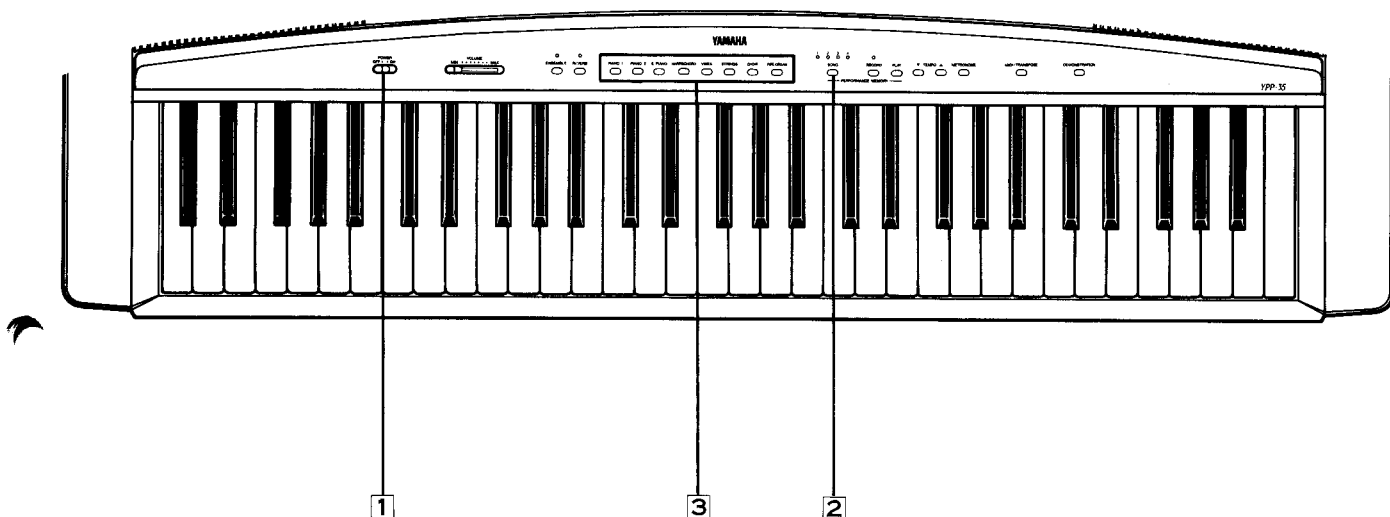
- ※電源を切ると、元の高さに戻ります。
- ※デモ曲の再生中には設定できません。

# 4. 演奏を録音/再生する

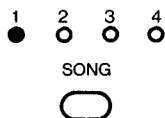
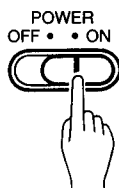
(パフォーマンスメモリー)

## 1. 演奏を録音する

YPP-35には、演奏を録音/再生できる機能としてパフォーマンスメモリーがあります。ご自分の演奏を聴いたり、伴奏パートを先に録音し、後からメロディーパートを重ねたりすることができます。

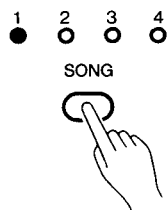


### 1 電源を入れる



電源(ON/OFF)スイッチをONの位置にして電源を入れます。

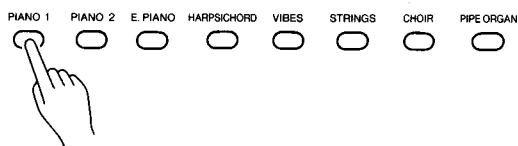
### 2 曲の番号を選ぶ



ソングセレクトボタンを押して、演奏を録音する曲の番号を1~4の中から選びます。

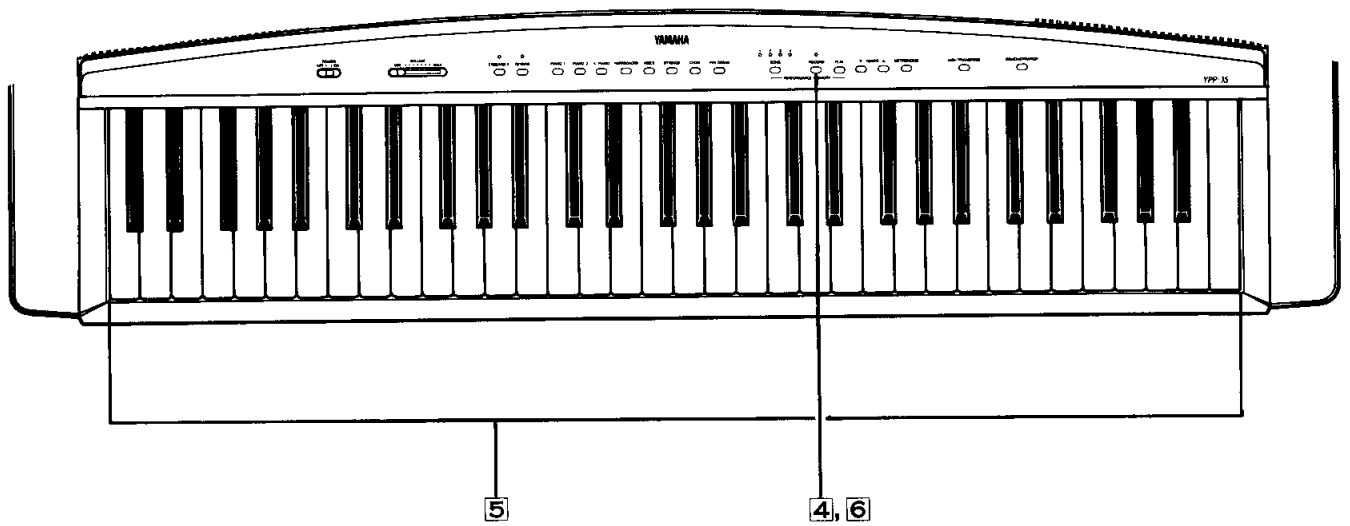
ソングセレクトボタンを押すごとに1~4のランプが順に点灯し、曲の番号が切り替わります。

### 3 音色を選ぶ



音色ボタンを押して、演奏で使う音色を選びます。

※録音中に音色を切り替えると、その操作も記憶され、再生時に同じタイミングで音色が切り替わります。

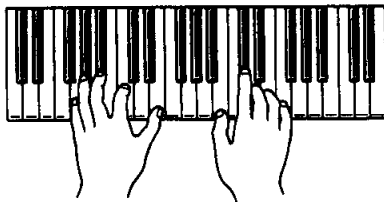


#### 4 録音状態にする



レコードボタンを押してランプを点灯させると、録音待機状態になります。

#### 5 演奏の開始



鍵盤を押すと、演奏を開始した時点から録音が始まります。録音が始まると、ランプは点滅に変わります。

#### 6 演奏の終了



演奏が終わったら、もう一度レコードボタンを押して録音を終了させます。

※録音を始める前に、必要に応じてアンサンブル(→9ページ)、リバーブ(→9ページ)などを設定してください。

また、アンサンブル、リバーブとも曲の途中で入/切すると、その操作も全て記録されます。

※メトロノームの入/切は、記録されません。

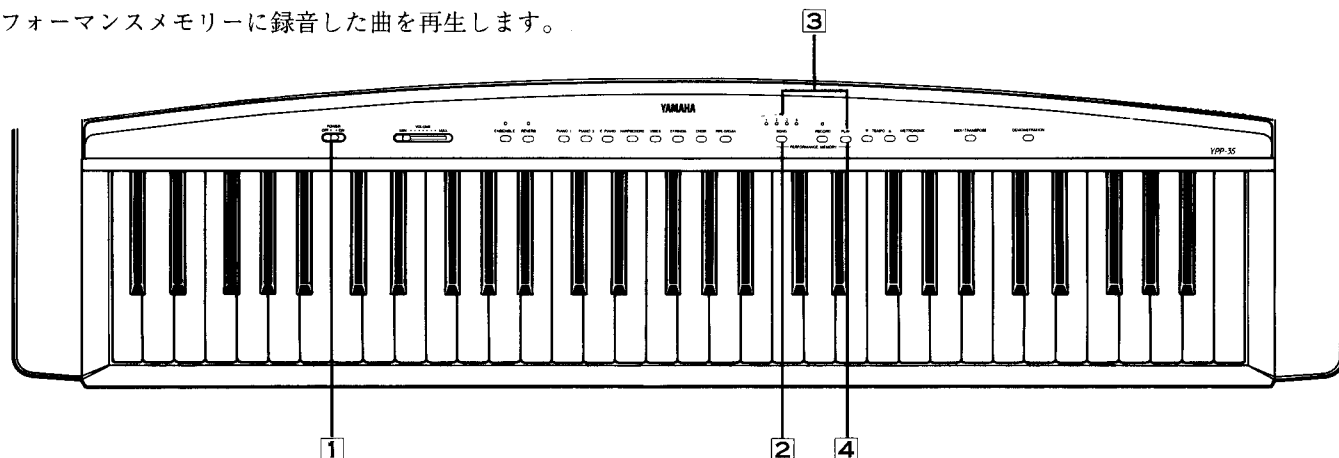
※録音できる音数は、ソング1~4の合計で最大約1,500音です。メモリーが一杯になると、自動的にレコードボタンの上のランプが消灯して録音を終了します。この場合、それまでの演奏は録音されています。

※録音された曲は、電源を切った状態で1週間以上過ぎると、消えてしまいます。

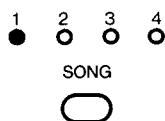
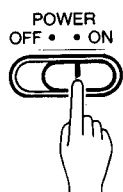


## 2. 演奏を再生する

パフォーマンスメモリーに録音した曲を再生します。

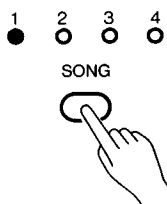


### 1 電源を入れる



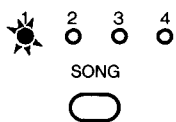
電源 (ON/OFF) スイッチを ON の位置にして電源を入れます。

### 2 曲の番号を選ぶ



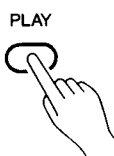
ソングセレクトボタンを押して、演奏を再生する曲の番号を1~4の中から選びます。  
ソングセレクトボタンを押すごとに1~4のランプが順に点灯し、曲の番号が切り替わります。

### 3 曲を再生する



プレイボタンを押すと、曲の再生が始まります。  
再生が始まると、いま再生されているソングのランプが点滅します。

### 4 再生を終了する



曲が終わると、自動的に再生は終了します。  
曲の途中で再生を止めたい時は、もう一度プレイボタンを押してください。

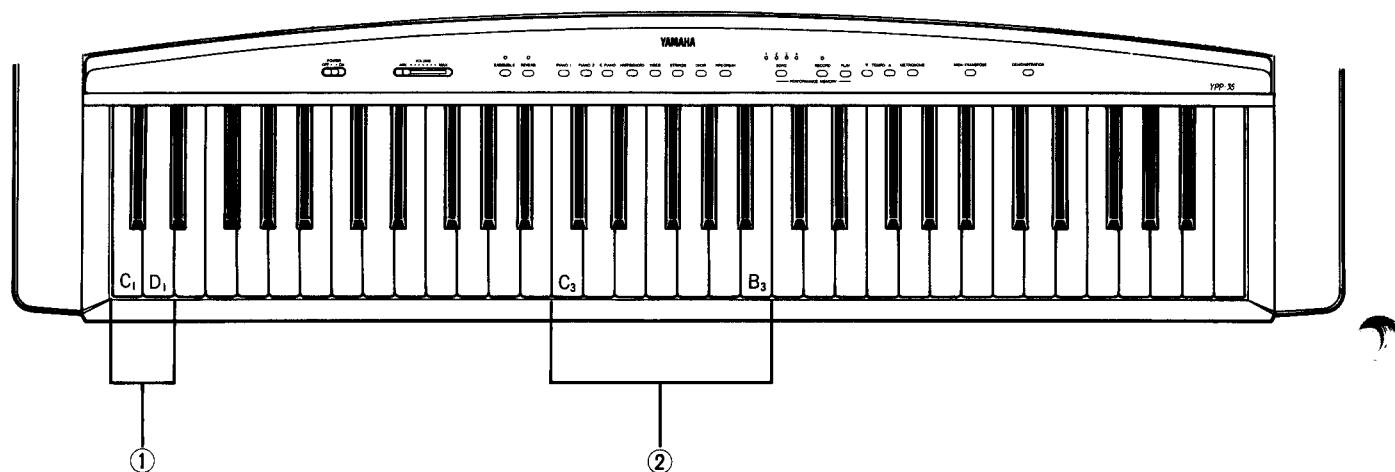
※再生している曲を伴奏にして、別の音色を選んで演奏できます。この機能を使うと、一人でアンサンブルを楽しんだり、一人で連弾の練習をするなど、パフォーマンスメモリーをいろいろと活用できます。

※再生している曲の音色を切り替えることはできません。  
※再生中に、アンサンブル、リバーブ、再生のテンポなどを切り替えることができます。

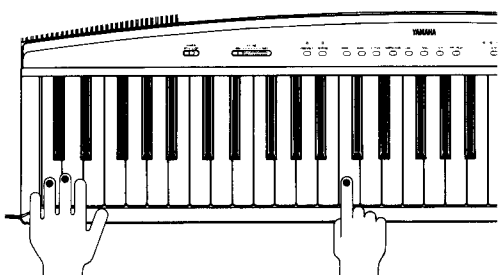
# 5. その他の機能

## 1. 他の楽器と音程を合わせる(マスターチューニング)

アンサンブルの時などに、他の楽器と正確に音程を合わせることができます。つまり微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って他の楽器と音の高さを合わせることができます。

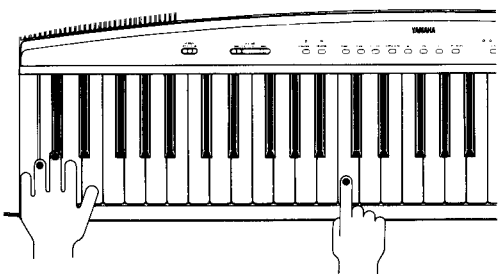


### 音程を上げる時



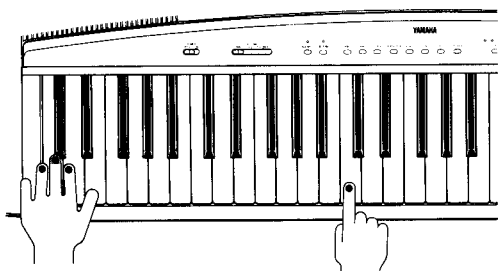
- ①ド(C<sub>1</sub>)とレ(D<sub>1</sub>)の鍵盤を同時に押しながら
- ②ド(C<sub>3</sub>)～シ(B<sub>3</sub>)のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。  
音を聴きながらこきざみに音程を上げて、ピッチを合わせてください。

### 音程を下げる時



- ①ド(C<sub>1</sub>)とド#(C<sup>#</sup><sub>1</sub>)の鍵盤を同時に押しながら
- ②ド(C<sub>3</sub>)～シ(B<sub>3</sub>)のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。  
音を聴きながらこきざみに音程を下げて、ピッチを合わせてください。

### 音程を初期状態の高さに戻す時



- ①ド(C<sub>1</sub>)とド#(C<sup>#</sup><sub>1</sub>)とレ(D<sub>1</sub>)の鍵盤を同時に押しながら、
- ②ド(C<sub>3</sub>)～シ(B<sub>3</sub>)のいずれかの鍵盤を押します。

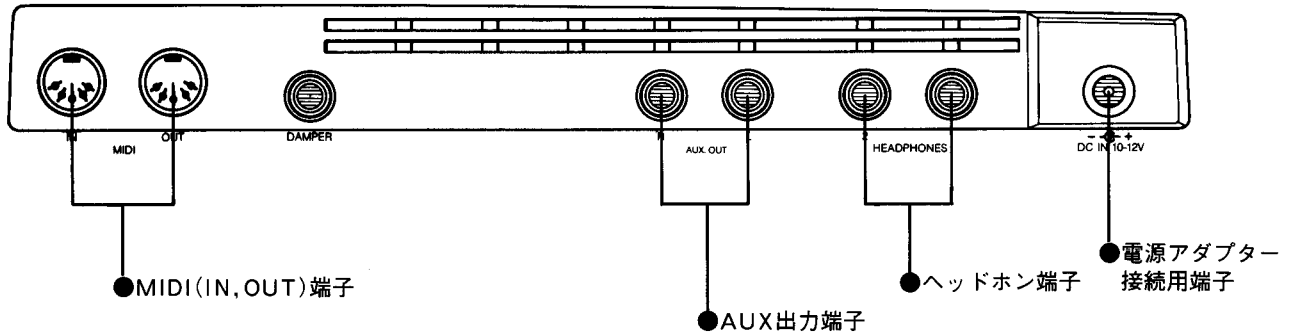
※電源を入れた直後は、初期状態(A<sub>3</sub>=440Hz)になっています。

※初期状態から±約50セントの範囲で設定できます。

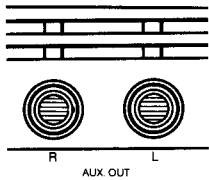
※半音=100セントです。

## 2. 他の機器と接続する

背面パネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。



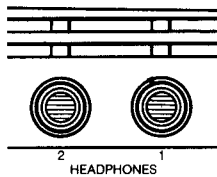
### ●AUX出力端子



この端子を使ってキーボードアンプなどに接続し、より大きな音で鳴らしたり、カセットテープに演奏を録音できます。

※接続した際は、他の機器のボリュームを最小にしてからYPP-35の電源(ON/OFF)スイッチをONにしてください。

### ●ヘッドホン端子

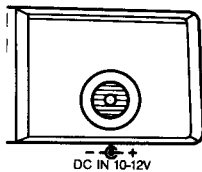


ステレオヘッドホンを2個まで接続し、外に音を出さずに演奏できます。

※この端子にプラグを差し込むと、YPP-35のスピーカからは音が出なくなります。

### ●電源アダプター接続用端子

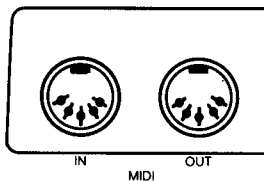
(→2ページ)



付属の電源アダプターPA-4を接続するための端子です。

### ●MIDI(IN、OUT)端子

(→19ページ)



この端子を使って他のMIDI機器と接続し、MIDIに関する情報をやりとりさせることができます。そして、さまざまなコントロールが可能です。

### 3. MIDI機能を使う

YPP-35はMIDI機能(MIDI端子)をもった楽器です。ここでは、MIDI端子の説明やMIDI機能を使ってできること、MIDIに関する設定方法を順に紹介します。

#### MIDIとは?

MIDI(ミディ)という言葉は、「Musical Instrument Digital Interface」の頭文字をとったものです。日本語に訳せば「楽器間のデジタル通信のための世界共通規格」ということになります。

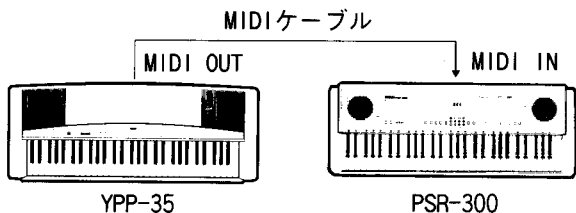
MIDIとは2台以上の楽器をつないで、それらの間で、演奏にまつわるさまざまなコントロールをさせようという目的で考え出された世界共通の規格です。

世界共通の規格ですから、メーカーの違う楽器間でもMIDI規格の楽器であれば、互いにコントロールすることが可能です。

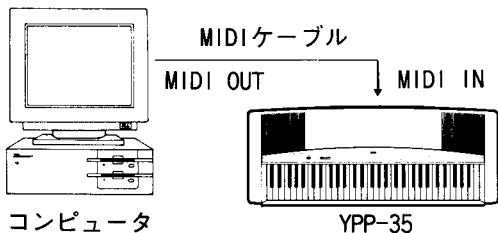
#### MIDIの能力

では、MIDIを使うと、具体的にどんなことができるのでしょうか?

- 1台のキーボードを演奏することによって、他のキーボードをリモート演奏することができます。また、音色の切り替えや、ダンパーペダルのON/OFFなど、様々な効果もあわせてリモートコントロールできます。



- コンピュータやシーケンサーにMIDIの演奏情報を記録しておけば、MIDI楽器に自動演奏をさせることができます。(MIDIの演奏情報を録音する機器を、一般にシーケンサーと呼んでいます。)



※MIDIはあくまでも規格ですから、新しい決まりを付け加えるだけで、できることがどんどん広がっていきます。MIDIはまだまだ発展途上にあるといえるでしょう。

#### MIDIの約束ごと

##### ●MIDI端子

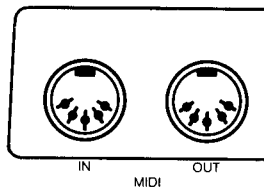
MIDI情報のやり取りには、専用のMIDIケーブルを使います。MIDI楽器には、このMIDIケーブルをつなぐために、専用のMIDI端子が付いています。

このMIDI端子には以下の3つの種類があります。

MIDI IN端子(イン) ……MIDI情報を受け取るための端子です。ここからMIDI情報が入ってきます。

MIDI OUT端子(アウト) ……MIDI情報を出すための端子です。本体から出ていくMIDI情報は、ここから出ていきます。

MIDI THRU端子(スルー) ……MIDI INから入ってきたMIDI情報を、そのまま出すことのできる端子です。この端子を利用すれば、MIDI情報を次の楽器に伝達することができます。



※YPP-35には、MIDI THRU端子はありません。

MIDIケーブルは、MIDI OUT端子またはMIDI THRU端子から、MIDI IN端子へ結線するのが原則です。

MIDI OUTとMIDI OUT、MIDI INとMIDI INをつないでも、意味がありません。

##### ●MIDIチャンネル

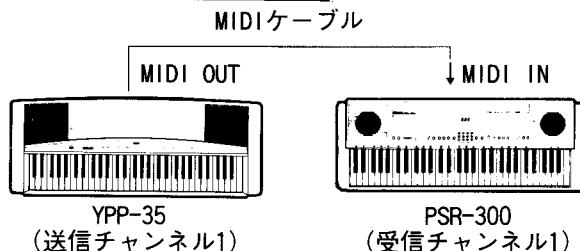
テレビの放送にチャンネルがあるように、MIDIの情報にもチャンネルがあります。

MIDIで情報のやり取りをするには、MIDIチャンネルを合わせる必要があります。と言うのは、MIDI情報のほとんどが、それぞれの情報にチャンネルが指定されて送られているからです。(チャンネルのついていないMIDI情報もあります。)

MIDIチャンネルには、1~16までの16種類があり、送る側でどのチャンネルで情報を送るか設定できるようになっています。この送る側のチャンネルを「送信チャンネル」と呼んでいます。

また、受け手側も何チャンネルの情報を受けかを設定できるようになっています。この受ける側のチャンネルを「受信チャンネル」と呼んでいます。

たとえば、次の図のようにYPP-35からPSR-300にMIDIで情報を送って鳴らそうと思ったら、YPP-35の送信チャンネルとPSR-300の受信チャンネルを合わせる必要があります。MIDIケーブルが正しく接続されていても、このチャンネルが合っていないと、送り手側からのMIDI情報に受け手側は反応しない仕組みになっているのです。

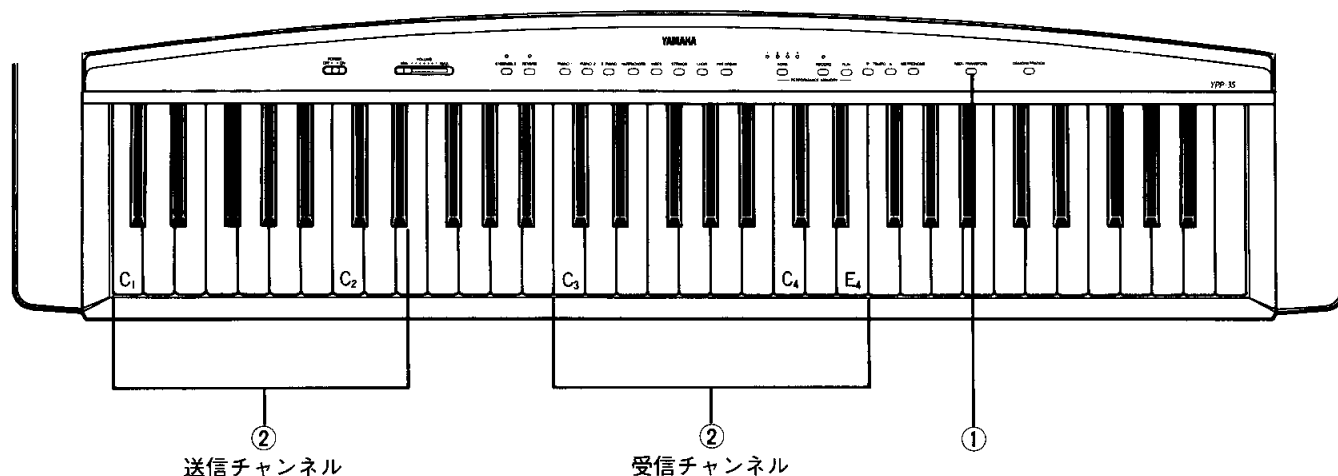


受信チャンネルには、1~16チャンネル以外にもう1つの状態があります。その状態とは「OMNI(オムニ)モード」と呼ばれるものです。このOMNIモードがONの設定になっていると、全てのチャンネルの情報を受けてしまいます。このOMNIモードは便利なモードですが、全ての送信チャンネルのデータにいっぺんに反応してしまいますから注意が必要です。

## YPP-35のMIDIの設定

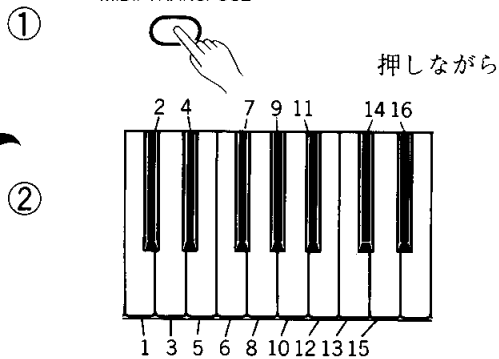
### ●MIDIチャンネルを設定する

MIDIの送信チャンネル、受信チャンネルを設定する



### 送信チャンネルを設定する時

MIDI/TRANPOSE



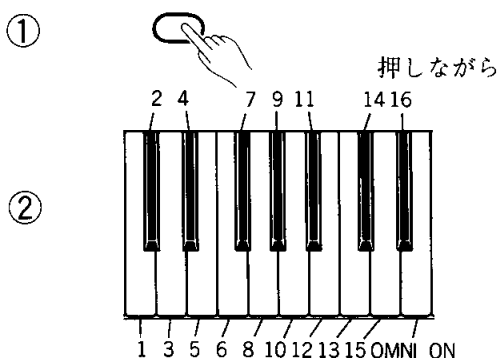
①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

②C<sub>1</sub>~D<sup>#</sup><sub>2</sub>の鍵盤を押すと、左の図のように送信チャンネルが設定されます。

※電源を入れた直後は、送信チャンネルは1に設定されています。

### 受信チャンネルを設定する時

MIDI/TRANPOSE



①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

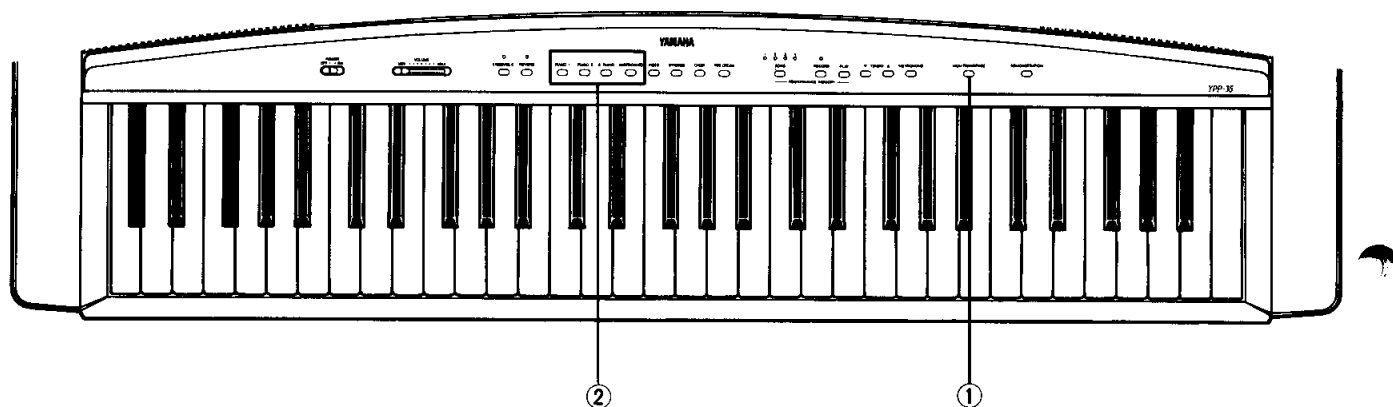
②C<sub>3</sub>~E<sub>4</sub>の鍵盤を押すと、左の図のように受信チャンネルが設定されます。

※電源を入れた直後は、受信チャンネルは1に設定されています。



※受信チャンネルが1~16に設定されている時は、OMNIはOFFに設定されています

## その他のMIDI設定

ローカルコントロール、プログラムチェンジ・キャンセル、コントロールチェンジ・キャンセル、マルチティンバーのON/OFFを設定します。



### ローカルコントロール



- ① **MIDI/TRANSPOSE**  

 押しながら
- ② **PIANO 1**  


YPP-35の内部で、鍵盤部分と音源部分を電氣的に切り離すか、切り離さないかの設定です。

ローカルコントロールをOFFにすると、鍵盤と音源が切り離されるため、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。YPP-35本体の音を鳴らさずに、MIDIで他のキーボードをコントロールしたい時に、OFFにしてください。

※操作するたびにON/OFFが繰り返されます。  
 ※電源を入れた直後は、ONに設定されています。

### プログラムチェンジ・キャンセル

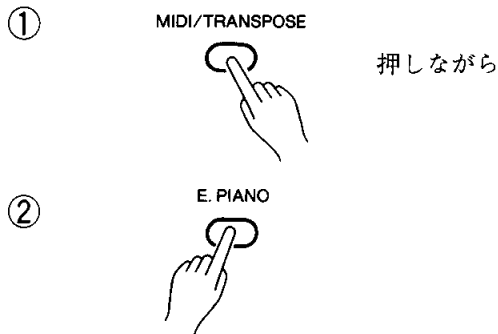
- ① **MIDI/TRANSPOSE**  

 押しながら
- ② **PIANO 2**  


MIDIの音色切り替えの信号を送受信させるか、させないかの設定です。

プログラムチェンジ・キャンセルをONにすると、MIDIで音色切り替えの信号を受け取っても、音色は切り替わらなくなります。また、他のキーボードの音色切り替えもコントロールできなくなります。

※操作するたびにON/OFFが繰り返されます。  
 ※電源を入れた直後は、OFFに設定されています。

## コントロールチェンジ・キャンセル



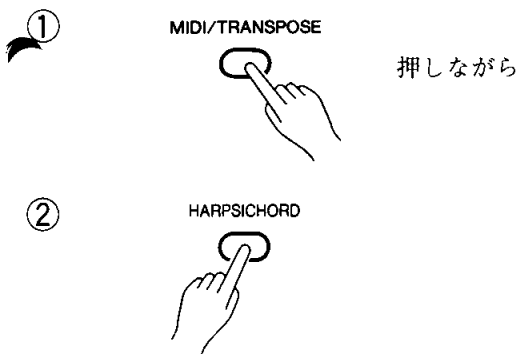
主にMIDIのダンパーペダルの信号を送受信させるか、させないかの設定です。

コントロールチェンジ・キャンセルをONにすると、ダンパーペダルのON/OFFをMIDIでコントロールできなくなります。

※操作するたびにON/OFFが繰り返されます。

※電源を入れた直後は、OFFに設定されています。

## マルチティンバー



チャンネル1~10の情報を同時に受信させるか、させないかの設定です。

マルチティンバーをONにすると、別々のチャンネルでシーケンサーに記録されている様々なパートの演奏情報を、YPP-35本体1台に同時に受信させて様々な音色で鳴らすことができます。

※操作するたびにON/OFFが繰り返されます。

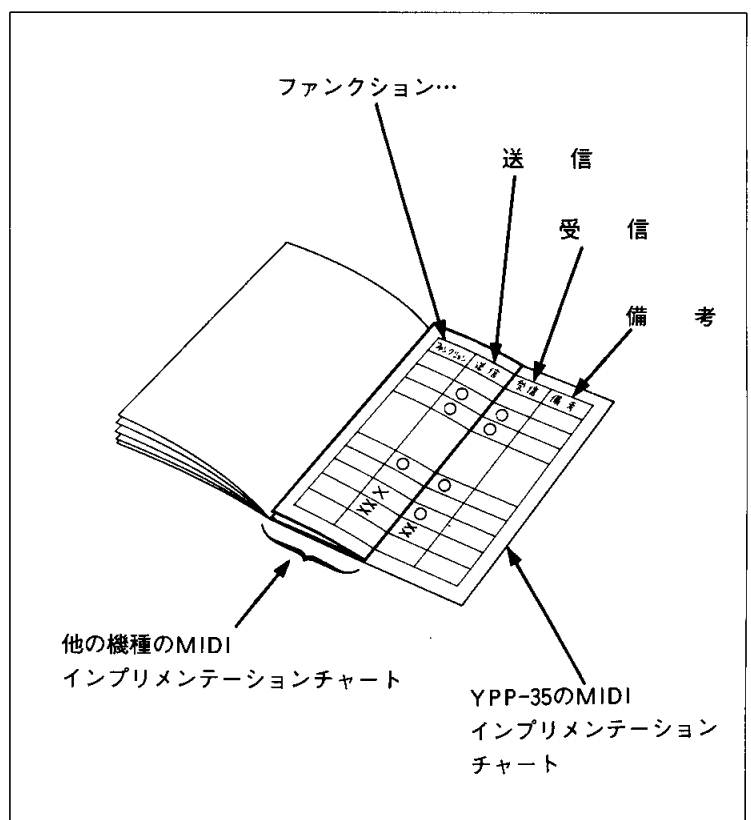
※電源を入れた直後は、OFFに設定されています。

## MIDIインプリメンテーションチャートとは

シンセサイザーや音源モジュールなどのMIDI機器には、必ずMIDIインプリメンテーションチャートと呼ばれる機能一覧表がついています。その機器がMIDIのどんな機能に対応しているかは外見からは判断できないため、このような表をつけることをMIDI規格で定めているのです。

この表では左端の列にMIDIの各機能が並び、受信と送信でそれぞれの機能に対応しているかどうかを"○"と"×"で表しています。2つの機器でお互いにどんな機能に対応しているかを調べる時には、それぞれの機種別のチャートを縦に2つ折りにし、受信側と送信側をつなげてみます(下図参照)。

"○"が2つ並べば、その機能が使えることになります。



# YPP-35

## MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1991.9.7  
Version:1.0

ファンクション	送 信	受 信	備 考
バージョン チャンネル 電源ON時 設定可能	1チャンネル 1~16チャンネル	1チャンネル 1~16チャンネル	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 オムニオン/オフ ×	
ノート ナンバー 音域	36~96 *****	21~108 21~108	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH、v=1~127 × 9nH、v=0	○ v=1~127 × 9nH、v=0 or 8nH	
アフター タッチ キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	×	×	
コントロール チェンジ 07 11 64	× × ○	○ ○ ○	ボリューム エクスプレッション ダンパー
プログラム チェンジ 設定可能範囲	○ 0~7 *****	○ 0~7 0~7	
エクスダルーシブ	○	○	
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム クロック コマンド	× ×	× ×	
その他 ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	○ ○ (122~125) ○ ×	
備考			

モード1: オムニ・オン, ポリ  
モード3: オムニ・オフ, ポリ

モード2: オムニ・オン, モノ  
モード4: オムニ・オフ, モノ

○: あり  
×: なし



# 6. 資料

## 1. オプション(別売品)のご紹介

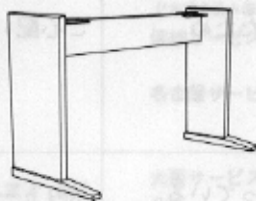
ステレオヘッドホン・HPE-5 ¥5,500



イス・BC-6 ¥5,000



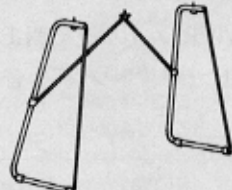
スタンド・LW-10  
(白鍵までの高さ730mm)



MIDIケーブル・MIDI-03 ¥1,100



スタンド・L-2C ¥6,000  
(白鍵までの高さ792mm)



※表示の価格には、消費税は含まれていません。

## 2. 仕様

- 鍵盤**  
一段鍵盤61鍵(C1~C6)
  - 音源**  
AWM音源
  - 音色(8音色)**  
PIANO 1、PIANO 2、E.PIANO、HARPSICHORD、  
VIBES、STRINGS、CHOIR、PIPE ORGAN
  - 同時発音数**  
PIANO 2、HARPSICHORD・・・最大32音  
その他の音色・・・・・・・・最大16音  
(ただし、アンサンブルボタンがONの時は最大16音)
  - 効果**  
アンサンブル、リバーブ、ダンパー
  - パフォーマンスメモリー**  
ソング数・・・・・・・・4ソング  
録音容量・・・・・・・・最大約1,500音
  - メトロノーム**
  - デモンストレーション**  
8曲(音色ごとに1曲)
  - 付属端子**  
ヘッドホン×2、AUX.OUT L,R、MIDI端子(IN,OUT)、  
ダンパーペダル接続用端子、電源アダプター接続用端子
  - メインアンプ**  
ステレオ、5W×2
  - スピーカー**  
12cm(4Ω)×2
  - 定格電源**  
DC10~12V：電源アダプターPA-4、  
単1乾電池6本
  - 消費電力**  
電源アダプター使用時：27W  
乾電池使用時：13W
  - 外装仕上げ**  
アクリルラッカー塗装仕上げ
  - 寸法(譜面立て取り外し時)**  
(間口)970mm×(奥行)381mm×(高さ)123mm
  - 重量(乾電池重量含まず)**  
9.1kg
  - 付属品**  
電源アダプターPA-4、譜面立て、ダンパーペダル、  
取扱説明書、ダストカバー
- ※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

### 3. おかしいな?と思ったら

おかしいな?と思ったら、この表を見てください。

現象	原因	解決法
音が途切れたり、誤動作がおきたりする。	乾電池が寿命のため。	6本共新しい乾電池と交換するか、または付属の電源アダプターを接続してください。
電源(ON/OFF)スイッチをONまたはOFFにした時、“ポツン”と音がする。	電気が流れたため。	ご心配ありません。
スピーカーから音が出ない。	音量が下がっている。	ボリュームレバーを上げてください。
	ヘッドホン端子にプラグを差しているため。	プラグを抜いてください。
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない。	同時に鳴らせる音数には制限があります。	6ページを参照してください。
記憶させておいたデータが消えている。	電源を切ったまま1週間以上経過した。	もう一度記憶させてください。
テンポが変わらない。	テンポの設定範囲を越えようとしている。	テンポの設定範囲は、♩=40~280の範囲です。
プレイボタンを押しても演奏が始まらない。	いま選ばれているソングに、曲が録音されていない。	まず、レコードキーを押して演奏を録音してください。
	ボリュームが下がっている。	ボリュームレバーで音量調節します。
	デモ演奏がスタートしている。	デモンストレーションボタンを押して、デモ演奏をストップさせてから改めてプレイボタンを押してください。
鍵盤を弾いても音が出ない。	ローカルコントロールがOFFになっている。	一度電源をOFFにして、再び電源をONにしてください。

## 4. 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

### ●保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡しますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

### ●保証期間

お買い上げ日から1年間です。

### ●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

### ●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

#### 消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

### ●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

### ●持込み修理のお願い

まず本書の「おかしいな?と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ本機をご持参ください。

### ●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

### ◆ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お持ち込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1-1-50	ヤマハセンター内	TEL. 011-512-6108
仙台サービスセンター	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7	仙台卸商共同配送センター3F	TEL. 022-236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184		TEL. 044-434-3100
東京サービスステーション*	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11		TEL. 03-5488-6625
(*お持ち込み修理のみお取り扱い)				
浜松サービスセンター	〒435-0048	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL. 053-465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL. 052-652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL. 06-877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	(株)ヤマハミュージック神戸高松店内	TEL. 087-822-3045
広島サービスセンター	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14		TEL. 082-874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL. 092-472-2134
[本社]カスタマーサービス部	〒435-0048	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL. 053-465-1158

### ◆ポータブル楽器に関するお問い合わせ窓口

#### ポータブル楽器インフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL. 053-460-1696

●受付日 月曜日～金曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)

●受付時間 10:00～12:00 / 13:00～17:00

電子楽器営業部	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	
ポータブル楽器営業グループ		TEL. 03-5488-6641	
北海道支店 第二営業課	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1-1-50	ヤマハセンター内
		TEL. 011-512-6113	
仙台支店 第二営業課	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10	住友生命仙台青葉通りビル
		TEL. 022-222-6147	
東京支店 第二営業部 企画課	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	
		TEL. 03-5488-5476	
関東支店 第二営業課	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	
		TEL. 03-5488-1688	
名古屋支店 第二営業課	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	
		TEL. 052-201-5199	
大阪支店 第二営業部 第二営業課	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9	心斎橋プラザビル東館
		TEL. 06-252-7491	
広島支店 第二営業課	〒730-8628	広島市中区紙屋町1-1-18	
		TEL. 082-244-3749	
九州支店 第二営業課	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	
		TEL. 092-472-2130	

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

### ◆インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。

・ヤマハ株式会社のホームページ <http://www.yamaha.co.jp/>

**YAMAHA**

YAMAHA CORPORATION

---

ヤマハ株式会社